

- 月4日～8月6日(東京)
240. 大川原明子、三浦典子、大原関利章、高橋啓、柏村信一郎、岡村春樹、大野尚仁、鈴木和男 血管炎を誘導する CAWS 投与初期のマウス好中球活性化とサイトカインの変動 第16回日本生体防御学会学術総会 8月4日～8月6日(東京)
 241. 長尾朋和、村山研、野津朋子、大川原明子、大原関利章、高橋啓、長谷川明洋、三浦典子、大野尚仁、渡邊直英、半田誠、南谷晴之、永井厚志、新井孝夫、中山俊憲、鈴木和男 CD69 分子と活性化好中球による血管炎発症 第16回日本生体防御学会学術総会 8月4日～8月6日(東京)
 242. 星野昭芳、長尾朋和、村山研、大川原明子、猪原登志子、武曾恵理、宇野加津子、三浦典子、大野尚仁、直江史郎、徳中一寛、安原真人、山本健二、鈴木和男 量子ドット(QD)標識抗マウス MPO 抗体を用いた血管炎発症に関わる活性化好中球 MPO 分子の蛍光による検出 第16回日本生体防御学会学術総会 8月4日～8月6日(東京)
 243. 荒谷康昭、倉 文明、渡辺治雄、赤川久義、高野幸枝、鈴木和男、Nobuyo Maeda、小山秀機 ミエロペルオキシダーゼ欠損マウスのクリプトコッカス感染防御能の低下 第11回 MPO 研究会 10月15～16日(福岡)
 244. 大野尚仁、篠原弘靖、三浦典子、石橋健一、安達禎之、大川原明子、鈴木和男、大原関利章、高橋 啓、直江史郎 真菌由来の PAMPs, *Candida albicans* Water-soluble fraction (CAWS) の血管炎惹起能における β マンノース残基の影響 第11回 MPO 研究会 10月15～16日(福岡)
 245. 亀岡洋祐、Persad A、鈴木和男 「ミエロペルオキシダーゼのリーダーペプチドに対する抗体の性状 第11回 MPO 研究会 10月15～16日(福岡)
 246. 富澤一夫、鈴木倫太郎、田之倉優、鈴木和男 ヒト MPO 分子における MPO-ANCA エピトープ解析 第11回 MPO 研究会 10月15～16日(福岡)
 247. 武曾恵理、鈴木進子、岩崎由加子、辻井知美、古宮俊幸、米本智美、塚本達雄、猪原登志子、宇野賀津子、鈴木和男 MPO-ANCA 関連腎炎血管炎に合併する悪性疾患症例の解析と考察 第11回 MPO 研究会 10月15～16日(福岡)
 248. 猪原登志子、宇野賀津子、古宮俊幸、辻井知美、塚本達雄、岸田綱太郎、小野孝彦、鈴木和男、深津敦司、北徹、武曾恵理 ANCA 関連血管炎症候群における IL-12, IL-23 と IL-18 の動態 ANCA 関第11回 MPO 研究会 10月15～16日(福岡)
 249. 大川原 明子、三浦典子、大原関利章、高橋 啓、柏村信一郎、岡村春樹、大野尚仁、鈴木和男 血管炎を誘導する CAWS 投与初期のマウス好中球活性化とサイトカインの変動 第11回 MPO 研究会 10月15～16日(福岡)
 250. 鈴木和男、長尾朋和、村山研、大川原明子、大原関利章、高橋啓、長谷川明洋、三浦典子、大野尚仁、渡邊直英、半田誠、南谷晴之、野津朋子、永井厚志、新井孝夫、中山俊憲 好中球血管炎発症にかかわる CD69 分子と活性化好中球 第11回 MPO 研究会 10月15～16日(福岡)
 251. 松村実美子、長尾朋和、三川浩輝、村山 研、大川原明子、南谷晴之、鈴木和男 血管炎発症機構の解析：MPO-ANCA と好中球の糸球体内皮細胞への作用 第11回 MPO 研究会 10月15～16日(福岡)
 252. 猪原登志子、宇野賀津子、古宮俊幸、辻井知美、塚本達雄、岸田綱太郎、小野孝彦、鈴木和男、深津敦司、北徹、武曾恵理 ANCA 関連血管炎症候群における IL-12, IL-23 と IL-18 の動態 第11回 MPO 研究会 10月15～16日(福岡)
 253. 鈴木和男、星野昭芳、長尾朋和、猪原登志子、宇野賀津子、徳中一寛、大川原明子、三浦典子、大野尚仁 Q ドットによる進行性糸球体腎炎の評価 第11回 MPO 研究会 10月15～16日(福岡)
 254. 松村実美子、長尾朋和、三川浩輝、村山 研、大川原明子、南谷晴之、鈴木和男 血管炎発症機構の解析：MPO-ANCA と好中球の糸球体内皮細胞への作用 第14回日本バイオイメージング学会 10月26～28日(東京)
 255. 富澤一夫、鈴木倫太郎、田之倉優、鈴木和男 ヒト MPO 分子における MPO-ANCA エピトープ解析 第14回日本バイオイメージング学会 10月26～28日(東京)
 256. 鈴木和男 好中球自己抗体 MPO-ANCA の抗原性と病態 第33回臨床免疫学会 10月28～30日(京都)
 257. 鈴木和男 血管炎発症機構における CD69 分子を介する好中球・血小板相互反応第28回日本血栓止血学会 11月23～25日(福岡)
 258. 飛田俊介、三浦典子、安達禎之、鈴木和男、中山俊憲、大野 尚仁 β グルカンをを用いたコラーゲン誘発関節炎モデルにおける CD69 の発現解析第28回分子生物学会 12月8～10日(福岡)
 259. 亀岡洋祐、笠間 毅、鈴木哲朗、猪原登志子、武曾恵理、橋本雄之、鈴木和男 ミエロペルオキシダーゼのリーダーペプチドの細胞内局在 第28回分子生物学会 12月8～10日(福岡)
 260. 松村実美子、長尾朋和、三川浩輝、村山 研、大川原明子、南谷晴之、鈴木和男 血管炎発症機構の解析：MPO-ANCA と好中球の糸球体内皮細胞への作用 第28回分子生物学会 12月8～10日(福岡)

261. 野津朋子、松村実美子、大川原明子、長谷川明洋、中山俊憲、永井厚志、鈴木和男 活性化好中球関与の肺血管内皮細胞の機能解析 第28回分子生物学会 12月8-10日 (福岡)
262. 富澤一夫、鈴木倫太郎、田之倉優、鈴木和男 ヒトMPO分子上のMPO-ANCA結合部位エピトープ解析 第28回分子生物学会 12月8-10日 (福岡)
263. 長尾朋和、大原関利章、長谷川明洋、大川原明子、三浦典子、野津朋子、高橋啓、大野尚仁、南谷晴之、新井孝夫、中山俊憲、鈴木和男 CD69 contributes to the development of vasculitis 第35回免疫学会 12月13-15日 (横浜)
264. 大川原明子、三浦典子、大原関利章、高橋啓、大野尚仁、鈴木和男 血管炎を誘導するCAWS投与初期のマウス好中球活性化 第35回免疫学会 12月13-15日 (横浜)
265. 鈴木和男、星野昭芳、長尾朋和、猪原登志子、宇野賀津子、徳中一寛、大川原明子、三浦典子、大野尚仁 血管炎発症初期の好中球活性化に関与する血中サイトカインの変動とQD標識MPO抗体のin vivoトレース 第35回免疫学会 12月13-15日 (横浜)
266. 大野尚仁、三浦典子、石橋健一、安達禎之、高橋啓、大原関利章、直江史郎、大川原明子、鈴木和男 *Candida albicans*由来の血管炎惹起物質CAWSの活性部位の解析 第35回免疫学会 12月13-15日 (横浜)
267. 土屋尚之、川崎綾、京極千恵子. 全身性エリテマトーデスにおける interferon regulatory factor 5 (IRF5)多型の関連 (シンポジウム). 2007年日本リウマチ学会総会、2007年4月26-29日、横浜 (抄録集 p190).
268. 江原幸和、土屋尚之、松下正毅、長谷川稔、藤本学、徳永勝士、竹原和彦、佐藤伸一: 広汎性皮膚硬化型強皮症とIL-10受容体β鎖多型との関連. 2007年日本リウマチ学会総会、2007年4月26-29日、横浜 (抄録集 p369).
269. 川崎綾、草生真規雄、深沢徹、橋本博史、高崎芳成、徳永勝士、土屋尚之: 日本人集団における interferon regulatory factor 5 (IRF5) 遺伝子多型と全身性エリテマトーデスの関連. 2007年日本リウマチ学会総会、2007年4月26-29日、横浜 (抄録集 p467).
270. Tsuchiya N, Kuroki K, Hitomi Y, Hasegawa M, Fujimoto M, Tokunaga K, Tedder TF, Takehara K, Sato S. Role of CD19 and CD22 polymorphisms in the susceptibility to human systemic sclerosis. Professor E. Carwile LeRoy Memorial International Workshop on Scleroderma, May 18-20, 2007, Tokyo.
271. Ehara Y, Matsushita M, Hasegawa M, Fujimoto M, Miyagi T, Kashiwase K, Oka T, Satake M, Tokunaga K, Takehara K, Sato S, Tsuchiya N. Association of IL10 promoter polymorphism with total skin score in systemic sclerosis. Professor E. Carwile LeRoy Memorial International Workshop on Scleroderma, May 18-20, 2007, Tokyo.
272. 土屋尚之、川崎綾、宮下リサ、大橋順、徳永勝士、草生真規雄、高崎芳成、橋本博史、Timothy W. Behrens, 京極千恵子: 日本人における全身性エリテマトーデスと interferon regulatory factor 5 (IRF5)との関連. 日本人類遺伝学会第52回大会 2007年9月12-15日、東京. (抄録集 p171).
273. 江原幸和、松下正毅、長谷川稔、藤本学、宮城徹、柏瀬貢一、岡孝紀、佐竹正博、徳永勝士、竹原和彦、佐藤伸一、土屋尚之: 広汎性皮膚硬化型強皮症とIL-10受容体β鎖多型との関連. 日本人類遺伝学会第52回大会 2007年9月12-15日、東京. (抄録集 p106).
274. 古谷武文、箱田雅之、土屋尚之、松本功、市川奈緒美、南家由紀、八子徹、小橋川剛、住田孝之、鎌谷直之、小竹茂: 早期RA患者における抗CCP抗体および抗GPI抗体とHLA-DRB1遺伝子型との関連. 日本人類遺伝学会第52回大会 2007年9月12-15日、東京. (抄録集 p161).
275. 宮下リサ、土屋尚之、屋部登志雄、小林茂人、橋本博史、尾崎承一、徳永勝士: 顕微鏡的多発血管炎(MPA)の疾患感受性とKIR-HLA遺伝子多型. 第16回日本組織適合性学会、2007年9月12日 京都
276. Kawasaki A, Kyogoku C, Miyashita R, Ohashi J, Tokunaga K, Kusai M, Takasaki Y, Hashimoto H, Behrens TW, Tsuchiya N. A SNP in IRF5 intron 1 defines a protective haplotype against SLE in Japanese. 2007 American College of Rheumatology Annual scientific Meeting, Boston, November 6-11, Boston.
277. Tsuchiya N, Kawasaki A, Takasaki Y, Hashimoto H, Ohashi J. Total number of risk alleles in four susceptibility genes as a marker for genetic risk to SLE. 2007 American College of Rheumatology Annual scientific Meeting, Boston, November 6-11, Boston.
278. Furuya T, Matsumoto I, Tsuchiya N, Hakoda M, Ichikawa N, Yago T, Nanke Y, Sumida T, Kamatani N, Kotake S. Anti-glucose-6-phosphate isomerase, anti-cyclic citrullinated peptide antibodies and HLA-DRB1 genotypes in Japanese patients with early rheumatoid arthritis. 2007 American College of Rheumatology Annual

- Scientific Meeting, Boston, November 6-11, Boston.
279. 13, Hitomi Y, Adachi T, Tsuchiya N, Honda Z, Tokunaga K, Tsubata T. The alternative spliced isoform of human CD72 that confer resistant against systemic lupus erythematosus regulate B lymphocyte apoptosis. 2007年日本免疫学会総会、東京、2007年11月20日~22日。
280. 土屋尚之：リウマチ性疾患の遺伝素因。第42回宮城リウマチ外科研究会特別講演、2006年2月18日、仙台。
281. 土屋尚之：遺伝子多型解析に基づく全身性エリテマトーデス発症分子機序の検討（シンポジウム）。第50回日本リウマチ学会、2006年4月23日~26日、長崎（抄録集 p22）
282. 宮下リサ、土屋尚之、小林茂人、橋本博史、尾崎承一、徳永勝士：顕微鏡的多発血管炎（MPA）の疾患感受性における KIR (killer cell Ig-like receptor)-HLA 遺伝子間相互作用の検討。第50回日本リウマチ学会、2006年4月23日~26日、長崎（抄録集 p19）。
283. 人見祐基、土屋尚之、長谷川稔、藤本学、竹原和彦、佐藤伸一、徳永勝士：ヒト CD22 遺伝子多型と全身性強皮症との関連。第50回日本リウマチ学会、2006年4月23日~26日、長崎（抄録集 p218）。
284. 川崎綾、古川宏、土屋尚之、草生真規雄、深沢徹、松多邦雄、橋本博史、小野栄夫、徳永勝士：SH2D1A (SLAM-associated Protein) 遺伝子多型と若年発症全身性エリテマトーデスの関連。第50回日本リウマチ学会、2006年4月23日~26日、長崎（抄録集 p220）。
285. 古谷武文、市川奈緒美、箱田雅之、樋上謙士、南家由紀、八子徹、小橋川剛、土屋尚之、徳永勝士、鎌谷直之、小竹茂：早期 RA 患者における骨破壊の進行と HLA-DRB1 遺伝子型および抗 CCP 抗体との関連。第50回日本リウマチ学会、2006年4月23日~26日、長崎（抄録集 p122）。
286. 土屋尚之：ヒト免疫系多重遺伝子ファミリーにおける copy number polymorphism と疾患感受性。日本進化学会 2006 年大会シンポジウム「多重遺伝子ファミリーの進化：遺伝子の生成と消滅のダイナミズム」。2006年8月29日~31日、東京（要旨集 p45）
287. 江原幸和、松下正毅、土屋尚之、柏瀬貢一、宮城徹、松多邦雄、草生真規雄、深沢徹、橋本博史、高崎芳成、佐竹正博、岡孝紀、徳永勝士：蛍光ビーズ法を用いた新規タイピングシステムによる IL-10 遺伝子プロモーター多型とリウマチ性疾患との関連の検討。日本組織適合性学会。2006年9月24~26日、東京。
288. 土屋尚之：遺伝子解析に基づくリウマチ・膠原病の病因・病態解析。日本人類遺伝学会シンポジウム。2006年10月17~20日、米子。（抄録集 p100）
289. 江原幸和、松下正毅、土屋尚之、柏瀬貢一、宮城徹、松多邦雄、草生真規雄、深沢徹、橋本博史、高崎芳成、佐竹正博、岡孝紀、徳永勝士：蛍光ビーズ法を用いた新規タイピングシステムによる IL-10 遺伝子プロモーター多型とリウマチ性疾患との関連の検討。日本人類遺伝学会。2006年10月17~20日、米子。（抄録集 p155）
290. Furuya T, Hakoda M, Ichikawa N, Higami K, Nanke Y, Yago T, Kobashigawa T, Inoue E, Tsuchiya N, Tokunaga K, Kamatani K, Kotake S. Differential association of HLA-DRB1 alleles in Japanese patients with early rheumatoid arthritis in relationship to autoantibodies to cyclic citrullinated peptide. American College of Rheumatology 2006 Annual Scientific Meeting.
291. Kawasaki A, Tsuchiya N, Kyogoku C, Hashimoto H, Takasaki Y, Behrens, T.W., Tokunaga K. Association of interferon regulatory factor 5 (IRF) SNPs with systemic lupus erythematosus in Japanese. 2006年日本免疫学会総会、2006年12月11~13日、大阪（抄録集 p101）
292. 江原幸和、土屋尚之、松多邦雄、橋本博史、高崎芳成、徳永勝士：蛍光ビーズ法を用いた新規タイピングシステムによる IL-10 遺伝子プロモーター多型とリウマチ性疾患との関連の検討。2006年日本免疫学会総会、2006年12月11~13日、大阪（抄録集 p286）
293. Mamegano K, Tsuchiya N, Kusaoi M, Fukazawa T, Hashimoto H, Matsuta K, Tokunaga K: Association of LILRA2 (ILT1, LIR7) polymorphism with systemic lupus erythematosus. Modern Rheumatol 15(Suppl): S217, 2005.
294. Kuroki K, Shiroishi M, Rasubala L, Tsuchiya N, Kohda D, Tokunaga K, Maenaka K: Structural and expression analyses on LILRB1 haplotypes associated with rheumatoid arthritis. Modern Rheumatol 15(Suppl): S246, 2005.
295. Kobayashi S, Tamura N, Ihara T, Muso E, Suzuki K, Yoshida M, Nakabayashi N, Tsuchiya N, Korosawa M, Inaba Y, Fujimoto S, Nunoi H, Hashimoto H. Prevalence of microscopic polyangiitis/ Wegener's granulomatosis and the ratio of MPO, PR-3-ANCA in patients with ANCA-associated vasculitis in Japan. The 12th International Vasculitis and ANCA Workshop June 15-18, 2005, Heidedlberg,

- Germany. (Abstract published in *Kidney & Blood Pressure Research*, 2005: 28, 190-191)
296. 豆ヶ野剛一、土屋尚之、草生真規雄、深沢徹、松多邦雄、橋本博史、徳永勝士：LILRA2 (ILT1, LIR7) 遺伝子多型と全身性エリテマトーデスとの関連。日本人類遺伝学会第50回大会抄録集 p149. 2005年9月19日～22日、倉敷。
297. 宮下リサ、土屋尚之、屋部登志雄、小林茂人、橋本博史、尾崎承一、徳永勝士：顕微鏡的多発血管炎の疾患感受性における KIR-HLA 遺伝子間相互作用の検討。日本人類遺伝学会第50回大会抄録集 p149. 2005年9月19日～22日、倉敷。
298. 土屋尚之：ヒトリウマチ性疾患の遺伝子解析による病態関連分子の検出 (シンポジウム)。日本臨床免疫学会会誌 28:216, 2005. 第33回日本臨床免疫学会、2005年10月28日～29日、京都。
299. Kuroki K, Tsuchiya N, Shiroishi M, Rasubala L, Yamashita Y, Matsuta K, Fukazawa T, Kusaoi M, Murakami Y, Takiguchi M, Juji T, Hashimoto H, Kohda D, Maenaka K, Tokunaga K. Extensive polymorphisms of LILRB1 (ILT2, LIR1) and their association with HLA-DRB1 shared epitope negative rheumatoid arthritis. *NK Hawaii*. 9th Meeting of the Society for Natural Immunity, November 2005, Hawaii.
300. Miyashita R, Tsuchiya N, Yabe T, Kobayashi S, Hashimoto H, Ozaki S, Tokunaga K: Association of genetic interaction between killer cell immunoglobulin-like receptor (KIR) and HLA-B genes with microscopic polyangiitis. *Arthritis Rheum* 52(suppl):S649, 2005.
301. 重松 宏 bFGF タンパクのピンポイントデリバリー法による血管再生療法、第46回日本脈管学会総会、シンポジウム
302. 重松 宏 虚血肢の治療を目的とした新規血管新生療法の実用化、第26回日本炎症・再生医学会、シンポジウム
303. 重松 宏 bFGF タンパクのピンポイント・デリバリーによる血管新生医療、第8回日本組織工学会 ランチョンセミナー
304. Asahara T. AHA Scientific Sessions 2007 Symposium, "Vascular Progenitor Cells and Cell Growth "Endothelial Progenitor Cells for Ischemic Diseases"
305. Kawamoto A, Safety and Efficacy Is Sustained Up To One Year after Transplantation of Autologous CD34+ Cells in No-Option Patients with Chronic Critical Limb Ischemia. *Ame Heart Association Scientific Meeting* 2006.
306. Chen Z, Inoue Y, Iwai T, Kurihara N, Jibiki M, Li X, Kubota T, Sugano N, Huang Y, Umeda M, Ishikawa I. Arterial thrombosis after intravenous infusion of Periodontal Bacteria in a rat model (2nd report). The 34th Annual meeting of Japanese society for vascular surgery.-The 3rd International session-. Tokyo, 2006. 5. 11.
307. Chen Y, Umeda M, Huang Y, Takeuchi Y, Kurihara N, Inoue Y, Iwai T. Elevated serum IgG antibody levels to Periodontal pathogens in patients with Burger disease. The 34th Annual meeting of Japanese society for vascular surgery.-The 3rd International session-. Tokyo, 2006. 5. 11.
308. Li X, Iwai T, Nakamura H, Inoue Y, Huang Y, Chen Y, Umeda M, Ishikawa I. Interaction of Porphyromonas gingivalis with human platelets and neutrophils: ultrastructural observations. The 52nd Annual congress of the Japan section. Tokyo, 2006. 6. 3.
309. Li X, Iwai T, Nakamura H, Inoue Y, Huang Y, Chen Y, Umeda M, Ishikawa I. The role of platelets in Buerger's disease. 第31回日本外科系連合学会. 金沢, 2006. 6. 22-23.
310. Iwai T, Inoue Y, Kurihara N, Li X, Chen Z, Umeda M, Chen Y, Huang Y, Ishikawa I, Nakamura H, Kimura A. Comprehensive investigations into the etiology of Buerger disease. XXII World congress of the International union of angiology. Lisbon, 2006. 6. 24-28.
311. Li X, Iwai T, Nakamura H, Inoue Y, Huang Y, Chen Y, Umeda M, Ishikawa I. The Role of platelet-bacterial interaction in Buerger's disease. 7th International congress of the Asian society for vascular surgery. Kuala Lumpur, 2006. 7. 16-19.
312. Li X, Asahina M, Inoue Y, Iwai T, Nakamura H. Ultrastructural study of the arteries in Buerger's disease. The 8th National congress of vascular surgery of China. Shenyang, China. 2006. 9. 1-3.
313. 宮本正章, 高木 元, 太良修平, 他. 膠原病による難治性潰瘍に対する再生医療を応用した集学的治療-血管新生からマゴットセラピーまで- 第19回日本アレルギー学会春季臨床大会 横浜 2007. 4 シンポジウム10 膠原病治療の現状と評価
314. 宮本正章, 水野博司, 多川政弘, 他. 難治性末梢動脈閉塞性疾患 (PAD) に対する総合的治療戦略-血管新生療法からマゴットセラピーまで-第32回日本足の外科学会学術集会 長崎 2007. 6 アフタナーンセミナー (1)
315. 宮本正章, 安武正弘, 高木 元, 他. 血管

- 再生医療を応用した難治性PADに対する総合的治療戦略—自己骨髄血管新生療法からマゴットセラピーまで— 第11回心筋・血管新生療法研究会 東京 2007. 7
316. 宮本正章, 水野博司, 多川政弘, 他 重症PADに対する総合的治療戦略—血管新生療法からマゴットセラピーまで— 第23回日本医工学治療学会学術大会 シンポジウム 末梢動脈疾患PADのすべて 集学的治療の実際 大阪 2007. 2
317. 宮本正章, 水野博司, 多川政弘, 他 重症難治性PADに対する総合的治療戦略—血管新生療法からマゴットセラピーまで— 第71回日本循環器病学会総会学術集会 教育講演 神戸 2007. 3
318. 相本隆幸, 内田英二, 田尻 孝, 他 生体修復材料を用いた膵消化管吻合術 基礎的研究: 再生医療による新しい手技 第19回日本肝胆膵外科学会学術集会 ミニワークショップ 2 移植・再生医療 横浜 2007. 6
319. Masaaki Miyamoto Excellent combination therapy of maggot debridement therapy (MDT) and bioartificial dermis with therapeutic angiogenesis and/or autograft skin transplantation 6th International Congress of Dipterology 2006
320. 宮本正章, 水野博司, 百束比古, 他 第15回日本形成外科学会基礎学術集会 シンポジウム 2006
321. 宮本正章, 安武正弘, 他 第31回日本外科学系連合学会総会 シンポジウム 2006
322. Gen Takagi, Masaaki Miyamoto, et al Control-Released Basic Fibroblast Growth Factor in Patients with Peripheral Artery Disease: Comparison with Bone Marrow Mononuclear Cell Implantation. AHA 2006
323. 宮本正章 他 第33回日本血管外科学会総会ワークショップ 2005
324. 宮本正章 他 第20回日本糖尿病合併症学会総会ワークショップ 2005
325. 安武正弘, 宮本正章 他 第4回日本再生医療学会総会シンポジウム 2005
326. Nakagawa A, Aoki M, Miyake T, Shiraya S, Nakamura T, Ogihara T, Kimata Y, Morishita R. Improvement of survival of skin flaps by combined gene transfer of hepatocyte growth factor and prostacyclin synthase. American Society of Gene Therapy 10th Annual Meeting 2007年5月30日-6月3日 Seattle USA
327. Nishikawa T, Nakagami H, Maeda A, Tabata Y, Tamai K, Kaneda Y. Development of high throughput functional screening of cardiovascular therapeutic genes using HVJ-E vector and identification of a novel angiogenic peptide, AG30. American Society of Gene Therapy 10th Annual Meeting. 2007年5月30日-6月3日 Seattle USA
328. Nakagami H, Nishikawa T, Morishita R, Tabata Y, Tomono K, Ogihara T, Kaneda Y. Functional analysis of novel antimicropeptide, AG(Angiogenic Peptide)-30, with angiogenic property, toward clinical application. 第71回日本循環器学会学術集会 2007年3月15日 神戸
329. Aoki M, Morishita R. Clinical Trials of Human Gene Therapy for Peripheral Arterial Disease Using Hepatocyte Growth Factor Gene Transfer. 第71回日本循環器学会学術集会 2007年3月17日 神戸
330. 森下 竜一 Clinical Trials of HGF(Hepatocyte Growth Factor) gene therapy in peripheral arterial disease (PAD). 第13回遺伝子治療学会 2007年6月30日 愛知がんセンター
331. 森下 竜一. 遺伝子診療のイノベーション 第14回日本遺伝子診療学会 2007年7月27日 愛媛看護研修センター
332. 森下 竜一. 脈管学におけるトランスレーショナルリサーチ 第48回日本脈管学会総会 2007年10月26日
333. 中神啓徳 次世代血管新生療法に向けての試み 第48回日本脈管学会総会 2007年10月26日
334. 中川彩, 青木下邦, 森下 竜一. 「HGF・PGIS 遺伝子を用いた random pattern flap 生着率の向上」 第15回日本形成外科学会基礎学術集会 2006年10月12日
335. 中川彩, 青木下邦, 森下 竜一. 「創傷治癒・難治性潰瘍に対する局所遺伝子導入法を用いた分子治療法の開発」 第15回日本形成外科学会基礎学術集会 2006年10月12日
336. Aoki M. et al. Two Years Follow-up of Clinical Trial of Human Gene Therapy for Peripheral Arterial Disease Using Hepatocyte Growth Factor Gene Transfer. American Heart Association. 2005.11 in Dallas
337. 川島聡子, 大和恒恵, 吉原 堅, 有村義宏, 中林公正, 山田 明: 下肢浮腫を初発症状とした尿蛋白陰性の MPO-ANCA 関連血管炎の1症例. 第51回日本リウマチ学会総会, 横浜, 2007. 4. 26~29.
338. 大和恒恵, 有村義宏, 軽部美穂, 中林公正, 山田 明: 関節リウマチにおける白血球除去法の有用性についての検討. 第51回日本リウマチ学会総会, 横浜, 2007. 4. 26~29.
339. 福岡利仁, 大塚貴子, 松田拓久, 須藤 京, 池谷京子, 川嶋聡子, 小路 仁, 早川 哲, 軽部美穂, 吉原 堅, 有村義宏, 中林公正, 山田 明: インフリキシマブ治療による RA

- 寛解例と難治例の臨床的検討. 第 51 回日本リウマチ学会総会、横浜、2007. 4. 26~29.
340. 池谷紀子、福岡利仁、有村義宏、中林公正、山田 明：輪状披裂関節炎により上気道閉塞をきたした関節リウマチの一例. 第 51 回日本リウマチ学会総会、横浜、2007. 4. 26~29.
341. 軽部美穂、有村義宏、須藤 京、中林公正、山田 明：MPO-ANCA 関連血管炎における血液異常—特に骨髓異形成症候群の合併について—. 第 50 回日本腎臓学会学術総会. 横浜、2007. 5. 25~27.
342. 副島昭典*、青木優子*、鈴木祥史*、大塚貴子、福岡利仁、中林公正、山田 明 (*：保健学部)：肝型脂肪酸結合蛋白 (L-FABP) は低分子量蛋白と類似した尿中への排泄態度を示す. 第 50 回日本腎臓学会学術総会. 横浜、2007. 5. 25~27.
343. 吉原 堅、有村義宏、軽部美穂、大和恒恵、中林公正、山田 明：MPO-ANCA 関連血管炎の寛解維持療法—免疫抑制療法中止例の解析—. 第 50 回日本腎臓学会学術総会. 横浜、2007. 5. 25~27.
344. 川嶋聡子、有村義宏、副島昭典、中林公正、山田 明、塩田奈津子、磯部充久、横川彰朋、粕谷泰次：尿中遊離型 cortisone/cortisol 比を指標とした腎疾患患者における 11- β HSD2 活性評価. 第 50 回日本腎臓学会学術総会. 横浜、2007. 5. 25~27.
345. 有村義宏、吉原 堅、中林公正、山田 明：ANCA 関連腎炎の治療—寛解維持療法、再燃時の治療を中心に—. 第 50 回日本腎臓学会学術総会. 横浜、2007. 5. 25~27.
346. 小路 仁、中林公正、軽部美穂、有村義宏、川嶋聡子、山田 明、藤岡保範：MPO-ANCA 関連血管炎の腎間質に於ける毛細血管炎について病理組織学的研究：免疫組織化学染色による腎間質の毛細血管炎について. 第 11 回腎間質障害研究会、東京、2007. 9. 15.
347. 須藤 京、福岡利仁、大塚貴子、遠藤哲也、有村義宏、要 伸也、中林公正、山田 明：リウマチ症状が先行した抗 GBM 抗体腎炎の 1 例. 第 37 回日本腎臓学会東部学術大会、大宮、2007. 10. 5~6.
348. 軽部美穂、斉藤督芸、小路 仁、要 伸也、有村義宏、中林公正、山田 明：クローン病による小腸切除後に高尿酸血症を来し、著名な間質性腎炎にて透析導入となった 1 例. 第 37 回日本腎臓学会東部学術大会、大宮、2007. 10. 5~6.
349. 小路 仁、斉藤督芸、大和恒恵、軽部美穂、中林公正、山田 明：ヒトパルボウイルス 19 感染後に血管極部に著名な炎症性細胞浸潤を伴った管内増殖性腎炎の 1 症例. 第 37 回日本腎臓学会東部学術大会、大宮、2007. 10. 5~6.
350. Nakabayashi K, Fukuoka K, Arimura Y, Yamada A, Fujioka Y: Different clinical and pathological disease subsets in patients with rapidly progressive glomerulonephritis associated with pulmonary hemorrhage. 2007 Am Soc of Nephrol meeting, San Francisco, 2007 11. 2~5.
351. 中林公正、他：MPO-ANCA 関連血管炎の臨床病型と生命予後・死因の臨床的解析. 第 50 回日本リウマチ学会総会、長崎、2006. 4. 23. ~26.
352. 森由紀子、中林公正、他：当院における Churg-Strauss 症候群 11 例の臨床的検討. 第 50 回日本リウマチ学会総会、長崎、2006. 4. 23. ~26.
353. 軽部美穂、中林公正、他：MPO-ANCA 関連血管炎に骨髓異形成症候群 (MDS) を合併した 3 例の検討. 第 50 回日本リウマチ学会総会、長崎、2006. 4. 23. ~26.
354. Nakabayashi K, et al : Different pathological mechanisms of tubulointerstitial nephritis between ANCA-associated nephritis and drug-induced tubulointerstitial nephritis: study with immunohistochemical staining. 2006 American Society of Nephrology Meeting, San Diego, 2006. 11. 16~19.
355. 吉原 堅、中林公正、他：MPO-ANCA 関連血管炎の寛解期における ANCA 値再上昇の意義に関する検討. 第 49 回日本腎臓学会総会、東京、2006. 6. 14~16.
356. 大塚貴子、福岡利仁、軽部美穂、有村義宏、副島昭典、中林公正、山田 明：腸管気腫症を合併したウエグナー肉芽腫の 1 例. 第 49 回日本リウマチ学会総会、横浜、2005. 4. 17~4. 20.
357. 池谷紀子、有村義宏、須藤 京、小宮郁子、軽部美穂、吉原 堅、中林公正、山田 明：MPO-ANCA 関連血管炎の肺病変の変遷. 第 49 回日本リウマチ学会総会、横浜、2005. 4. 17. ~4. 20.
358. 軽部美穂、有村義宏、池谷紀子、早川 哲、小河千恵子、松田朝子、吉原 堅、副島昭典、中林公正、山田 明：MPO-ANCA 関連血管炎における悪性腫瘍の検討. 第 49 回日本リウマチ学会総会、横浜、2005. 4. 17. ~4. 20.
359. Nakabayashi K : MPO-ANCA associated vasculitis — clinical manifestations, laboratory data, renal pathology, and prognosis. International Conference on the Mechanism of the Advancement of Chronic Kidney Disease, Beijing, 2005. 7. 3. ~7. 4.
360. Nakabayashi K, Fukuoka K, Arimura Y, Yamada A, Nagasawa T: Three different subsets of pulmonary-renal syndrome

- associated with MPO-ANCA, anti-GBM antibody or immune complexes and clinicopathologic features. 12th International Vasculitis and ANCA Workshop, Heiderberg, 2005. 7. 15. ~7. 18.
361. Kobayashi S, Tamura N, Ihara T, Muso E, Suzuki K, Yoshida M, Fujimoto S, Nunoi H, Hashimoto: Prevalence of microscopic polyangitis / Wegener's granulomatosis and the ratio of MPO, PR3-ANCA in patients with ANCA-associated vasculitis in Japan. 12th International Vasculitis and ANCA Workshop, Heiderberg, 2005. 7. 15. ~7. 18.
362. Arimura Y, Karube M, Yamato Y, Nakabayashi K, Yamada A, Nagasawa T, Takashima T: Malignancy in MPO-ANCA associated vasculitis 12th International Vasculitis and ANCA Workshop, Heiderberg, 2005. 7. 15. ~7. 18.
363. 大和恒恵、有村義宏、中林公正、山田 明、藤野 節、藤岡保範：PCH(pulmonary capillary hemangiomatosis)を認めたCREST症候群の1例。第10回血管病理研究会、福岡、2005. 10. 22.
364. S Kobayashi, T Ito-Ihara, K Suzuki, S Fujimoto, RA Watts, DG Scott, DJ Jayne, H Hashimoto and the Japan-UK AAV Study Group. Incidence of ANCA-associated vasculitis in Japan. A preliminary report from Japan-UK collaboration study.
365. 多田久里守、池田 真、田村直人、高崎芳成、木田一成、橋本博史、小林茂人、井上 久。強直性脊椎炎におけるインフリキシマブの有効性について。第16回日本脊椎関節炎研究会 平成18年9月9日 奈良県文化会館
366. 小林茂人。扁桃炎と反応性関節炎、扁桃シンポジウム：扁桃と病巣感染—他科との連携—第19回日本口腔・咽頭科学学会総会、2006年9月7日京王プラザホテル
367. 木田一成、小林茂人、橋本博史、健康食品服用後に多関節炎を発症した2症例。第47回埼玉リウマチ研究会。平成18年7月7日大宮サンパレス
368. 吉留嘉人、森本真司、田村直人、小林茂人、津田裕士、高崎芳成、橋本博史、発症時に多発性筋炎所見を伴った筋無力症クレーゼの一例。関東リウマチ。39：194-199, 2006.
369. 平島美賀、松平蘭、池田真、金田和彦、森本真司、田村直人、深沢徹、小林茂人、高崎芳成、橋本博史。リツキシマブを投与した難治性ウェゲナー肉芽腫症の2症例。日本リウマチ学会総会・学術集会抄録集。339, 2006.
370. 守田貴浩、小林茂人、山路健、田村直人、高崎芳成、橋本博史。日本リウマチ学会総会・学術集会抄録集 336, 2006.
371. 田村直人、春田和彦、小林茂人、橋本博史。関節リウマチの病態解析 ホスファチジルイノシトール3キナーゼ阻害剤の関節炎モデルに対する抑制作用。日本リウマチ学会総会・学術集会抄録集, 76, 2006.
372. 宮下リサ、土屋尚之、小林茂人、橋本博史、尾崎承一、徳永勝士。顕微鏡的多発血管炎(MPA)の疾患感受性におけるKIR(killer cell Ig-like receptor)-HLA 遺伝子間相互作用の検討。日本リウマチ学会総会・学術集会抄録集 Page19, 2006.
373. Shouichi Fujimoto, Shigehiro Uezono, Shuichi Hisanaga, Keiichi Fukudome, Shigeto Kobayashi, Kazuo Suzuki, Hiroshi Hashimoto, Hiroyuki Nunoi Incidence of primary renal vasculitis in Miyazaki Prefecture, Japan. The 12th International, Vasculitis and ANCA Workshop, Heidelberg, German Cancer Center, June15-18, 2005
374. Shigeto Kobayashi, Naoto Tamura, Toshiko Ihara, Eri Muso, Kazuo Suzuki, Masaharu Yoshida, Kimimasa Nakabayashi, Naoyuki Tsuchiya, Michiko Kurosawa, Yutaka Inaba, Shouichi Fujimoto, Hiroyuki Nunoi, Hiroshi Hashimoto, The 12th International, Vasculitis and ANCA Workshop, Heidelberg, German Cancer Center, June15-18, 2005
375. Takashi Yoshimasu, Nobuo Kanazawa, Fukumi Furukawa: Expression of histamine receptors on lupus skin lesions, The 68th Annual Meeting of Society for Investigative Dermatology, May 9 to 12, 2007, Los Angeles, California
376. Fukumi Furukawa, Nobuo Kanazawa, Takashi Yoshimasu: The expression of histamine receptors in skin lesions of MRL/MP-lpr/lpr mice, The 8th International Congress on SLE, May 23 to 27, 2007, Shanghai
377. 中村智之、金澤伸雄、山本有紀、古川福実：皮膚型結節性多発動脈炎の疾患概念および独立性に関する検討。第30回皮膚脈管膠原病研究会、2007. 1. 25-26.、横浜
378. 木村文子、上出康二、中 啓吾、古川福実：顕微鏡的多発血管炎の一例。第30回皮膚脈管膠原病研究会、2007. 1. 25-26.、横浜
379. 吉益 隆、金澤伸雄、古川福実：ループスの皮疹部と各種ヒスタミンレセプターの発現との関与。第32回日本研究皮膚科学学会学術大会・総会、2007. 4. 18-20.、横浜
380. 池田高治、湯川尚一郎、吉藤 元、野島崇樹、大村浩一郎、臼井 崇、藤井隆夫、三森経世：エタネルセプト投与中に白血球除去療法を併用し有効であった関節リウマチの2例。第51回日本リウマチ学会総会・

- 学術集会 第16回国際リウマチシンポジウム、2007.4.26-29. 横浜
381. 湯川尚一郎、藤井隆夫、中嶋 蘭、伊藤能永、池田高治、吉藤 元、野島崇樹、大村浩一郎、臼井 崇、三森経世：TNF阻害療法中にSLE様免疫異常を認めた関節リウマチの5例。第51回日本リウマチ学会総会・学術集会 第16回国際リウマチシンポジウム、2007.4.26-29. 横浜
382. 臼井 崇、小林志緒、橋本美季子、伊藤能永、吉藤 元、池田高治、湯川尚一郎、野島崇樹、大村浩一郎、藤井隆夫、三森経世：疾患特異的な免疫制御法の開発の可能性。第51回日本リウマチ学会総会・学術集会 第16回国際リウマチシンポジウム、2007.4.26-29. 横浜
383. 中村智之、金澤伸雄、山本有紀、古川福実：皮膚型結節性多発動脈炎の疾患概念および診断基準に関する検討。第19回日本アレルギー学会春季臨床大会、2007.6.10-12、横浜
384. F. Furukawa, T. Yoshimasu, Y. Yamamoto, R. Paus, T. Ito, A. Hiroi: Male New Zealand Black/KN mice: a novel model for lupus-associated alopecia, The International Congress "SKIN, RHEUMATISM AND AUTOIMMUNITY", Feb 2-4, 2006, Abano Terme (Padova) Italy
385. Ohtani T, Furukawa F: Cyclophosphamide enhances TNF- α -induced apoptotic cell death in murine vascular endothelial cell. International Symposium of Adverse Drug Reaction (ADR) in Yokohama, Feb 9-10, 2006, Yokohama
386. Yoshimasu T, Nishide T, Furukawa F: Histamine receptor (HR1, HR2, HR3) profiles in skin lesions of MRL/lpr mice. Annual Meeting Society for Investigative Dermatology, May 3-6, 2006, Philadelphia
387. Furukawa F: Drug-induced photosensitive lupus erythematosus, International Symposium on Photomedicine, Gwangju, Korea, Sep 14-16, 2006
388. 古川福実、吉益隆、山本有紀、中村智之、廣井彰久、金澤伸雄、伊藤泰介：New Zealand Black/KN雄マウスの脱毛は非可逆性で自己免疫性である、第38回日本結合織学会、2006.5.11-12、前橋
389. 大谷稔男、中村智之、戸田憲一、古川福実：シクロホスファミドはTNF- α が惹起する血管内皮細胞株F-2のアポトーシスを助長する。日本研究皮膚科学会第31回年次学術大会・総会、2006.5.31-6.2、京都
390. 吉益 隆、西出武司、古川福実：ヒスタミンレセプターはMRL/lprマウスの皮疹発症に関与する。日本研究皮膚科学会第31回年次学術大会・総会、2006.5.31-6.2、京都
391. 中村智之、廣井彰久、古川福実、伊藤泰介、伊藤雅章：New Zealand Black/KNマウス皮膚に沈着する免疫グロブリンの病因的意義。第105回日本皮膚科学会総会、2006.6.2-4、京都
392. 廣井彰久、伊藤泰介、伊藤雅章、古川福実：New Zealand Black/KN雄マウスの脱毛は非可逆性で自己免疫性である。第105回日本皮膚科学会総会、2006.6.2-4、京都
393. 吉益 隆、西出武司、古川福実：薬剤性ループスエリテマトーデスの皮疹発症に関与するT細胞亜集団、第105回日本皮膚科学会総会、2006.6.2-4、京都
394. 中村智之、金澤伸雄、山本有紀、古川福実：皮膚型結節性多発動脈炎は独立疾患か？和歌山県立医科大学における症例の検討、第36回日本皮膚アレルギー学会総会・第31回日本接触皮膚炎学会総会合同学術大会、2006.7.15-16、淡路島、兵庫
395. 吉益 隆、金澤伸雄、古川福実：薬剤性DLEモデルにおけるヒスタミンレセプターの関与、第36回日本皮膚アレルギー学会総会・第31回日本接触皮膚炎学会総会合同学術大会、2006.7.15-16、淡路島、兵庫
396. 中村智之、金澤伸雄、山本有紀、古川福実：皮膚型結節性多発動脈炎の位置づけに関する検討、第397回日本皮膚科学会大阪地方会和歌山地区会、2006.9.23、和歌山
397. 古川福実：膠原病の皮膚潰瘍について、和歌山皮膚再生治療研究会、2006.9.30、和歌山
398. 中村智之、廣井彰久、古川福実：New Zealand Black/KN雄マウスの脱毛は非可逆性で自己免疫性である、第34回日本臨床免疫学会総会、2006.10.2-3、京都
399. 吉益 隆、西出武司、金澤伸雄、古川福実：ループスエリテマトーデスマウスの皮膚病変におけるヒスタミン受容体の発現とその意義、第56回日本アレルギー学会秋期学術大会、2006.11.2-4、東京
400. 金澤伸雄、中村智之、山本有紀、古川福実：皮膚型結節性多発動脈炎の位置づけに関する検討、第56回日本アレルギー学会秋期学術大会、2006.11.2-4、東京
401. Yoshimasu T, Kanazawa N, Furukawa F: Expression of histamine receptors in drug-induced cutaneous LE model、日本免疫学会・学術集会、2006.12.11-13、大阪
402. 中村智之、金澤伸雄、山本有紀、古川福実：皮膚型結節性多発動脈炎の疾患概念と診断基準に関する検討、第30回皮膚脈管膠原病研究会、2007.1.25-26、横浜
403. 古川福実 シクロホスファミドがマウス皮膚由来血管内皮細胞株 F-2 におよぼす効果 日本アレルギー学会会誌 第54回日本アレルギー学会、2005、盛岡
404. 浅田麻紀、佐田憲映、戸田直美、前島洋平、

- 杉山 齊、槇野博史 ANCA 関連血管炎患者における動脈硬化の検討 第 49 回日本腎臓学会学術総会 平成 18 年 6 月 14 日～16 日 東京
405. 湯村和子, 代田さつき, 杉浦秀和, 武井卓, 内田啓子, 新田孝作: 抗好中球細胞体抗体 (ANCA) 関連腎炎における臨床病態と治療. 第 104 回日本内科学会, 日本内科学会誌 96 (臨時増刊): 208, 2007
406. Yumura Wako: Contribution of CD69 in MPO-associated glomerulonephritis in mice. 13th International vasculitis & ANCA workshop: 2007, Mexico
407. 板橋美津世、湯村和子他: ANCA 関連腎炎の病理学的検討 第 49 回日本腎臓学会総会 日本腎臓学会誌、48 ; 263, 2006
408. 湯村和子、板橋美津世: ANCA 関連血管炎におけるステロイド治療の有用性 第 49 回日本腎臓学会総会 日本腎臓学会誌: 48; 157, 2006
409. Yumura W, Itabashi M et al: A novel mouse MPO-ANCA associated- glomerulonephritis. 12th International vasculitis and ANCA workshop, Heidelberg, 2005
410. 湯村和子、板橋美津世他: 腎移植後 MPO-ANCA 陽性の半月体形成性腎炎を認めた 1 症例. 第 35 回日本腎臓学会東部学術大会、新潟、2005
411. 湯村和子、板橋美津世他: BSA により惹起された半月体形成を伴う ANCA 関連膜性増殖性糸球体腎炎の経時的解析. 第 48 回日本腎臓学会学術総会 横浜、2005
412. 吉田雅治 第 50 回アメリカ腎臓学会年次集会 (平成 19 年 11 月 1 日～6 日: サンフランシスコ、米国)
413. Ozaki S., Yamada H., Nagafuchi H., Ooka S., Maeda A., and Itoh H.: Rituximab treatment in patients with Wegener's granulomatosis resistant to or intolerant of cyclophosphamide. The Second East Asian Group of Rheumatology Meeting. 2007. 5.
414. 2. H. Yamada.: Rituximab for the treatment of Japanese patients with refractory ANCA-associated vasculitis: International Symposium on Primary Systemic Vasculitides. 2007. 9, Tokyo.
415. 島田恵子、大岡正道、伊東 宏、小俣正美、北菌貴子、前田聡彦、柴田朋彦、山田秀裕、尾崎承一: Wegener 肉芽腫による眼窩内肉芽腫に対して rituximab にて治療後再発した 1 例. 第 22 回日本臨床リウマチ学会. 2007. 11. 30-12. 1. 鹿児島県民交流センター
416. 山田秀裕: 血管障害. 第 34 回日本臨床免疫学会総会. 2006. 10. 3 東京
- G. 知的所有権の取得状況
1. 特許取得
1. 特許出願 2007-253402、出願日: 2007. 9. 28 発明者: 尾崎承一、石津明洋、外丸詩野、吉木敬、村井太一 発明の名称: 「自己免疫疾患の被験者に対する治療効果の予測方法」 (申請中)
2. 特願 2006-3783、出願日: 平成 18 年 1 月 11 日 発明者: 加藤智啓 名称: 「強皮症の診断方法、強皮症の診断薬及び強皮症診断マーカー」
3. 特許公開 2003-219875 重松 宏 「血管新生を促進するための新規な方法」
4. 2007 特許出願, 商標登録出願「マゴットバッグ」宮本正章
5. 特願 2007-280969: 「MPO-ANCA 親和性検出方法」吉田雅治 (申請中)
2. 実用新案登録
なし
3. その他
なし

〔Ⅲ〕

平成17～19年度
研究成果に関する刊行物一覧

研究成果の刊行に関する一覧表（和文書籍）

| 著者氏名 | 論文タイトル名 | 書籍全体の編集者名 | 書籍名 | 出版社名 | 出版地 | 出版年 | ページ |
|---------------|--|---|---|------------|-----|---------|---------------|
| 尾崎承一 | リウマチ性多発筋痛症 | 山口 徹、 北原光夫、 福井次矢、 相沢好治 | 今日の治療指針 2007 | 医学書院 | 東京 | 2007 | 595 |
| 菅田文彦、 尾崎承一 | 結節性多発動脈炎 | 太田 健、 奈良信雄 編集 | 今日の診断基準 | 南江堂 | 東京 | 2007 | 664- 666 |
| 大矢直子、 尾崎承一 | 薬剤過敏性血管炎 | 太田 健、 奈良信雄 編集 | 今日の診断基準 | 南江堂 | 東京 | 2007 | 667 |
| 尾崎承一 | アレルギーの種類および 機序 | 大野 勲、 柴崎敏昭、 平井みどり、 星 恵子、 三木知博、 山下直美 編集 | 臨床医学テキスト | 薬事新 報社 | 東京 | 2007 | 346- 347 |
| 尾崎承一 | 自己免疫疾患/膠原病 | 大野 勲、 柴崎敏昭、 平井みどり、 星 恵子、 三木知博、 山下直美 編集 | 臨床医学テキスト | 薬事新 報社 | 東京 | 2007 | 349- 352 |
| 永瀧裕子、 尾崎承一 | 血管炎に対する抗 CD20 モノクローナル抗体 (rituximab)治療 | 飯野靖彦、 榎野博史、 秋澤忠男 | 腎疾患・透析最新の 治療 | 南江堂 | 東京 | 2007 | 31-35 |
| 尾崎承一 | ウェゲナー肉芽腫症 | 山口 徹、 北原光夫、 福井次矢、 相沢好治 | 今日の治療指針 2008 | 医学書院 | 東京 | 2008 | 635- 637 |
| 尾崎承一 | 自己免疫疾患・アレルギー 疾患・免疫不全の分類 | | わかりやすい内科学 第3版 | 文光堂 | 東京 | 2008 | 378- 380 |
| 尾崎承一 | 血管炎症候群 | 高久史麿、 尾形悦郎、 黒川 清、 矢崎義雄 他 | 新臨床内科学第9版 | 医学書院 | 東京 | 印刷 中 | |
| 尾崎承一 | アレルギー性肉芽腫性血 管炎 | 山口 徹、 北原光夫、 福井次矢、 相沢好治 | 今日の治療指針 2006 | 医学書院 | 東京 | 2006 | 612- 614 |
| 尾崎承一 | Behcet 病 | 小俣政男、 金澤一郎、 北原光夫、 山口 徹、 総編集 | 内科学 | 医学書院 | 東京 | 2006 | 2540- 2547 |
| 尾崎承一 | 血管炎症候群 | 住田孝之 編集 | EXPERT 膠原病・リ ウマチ 改訂第2版 | 診断と 治療社 | 東京 | 2006 | 308- 327 |
| 山田秀裕、 尾崎承一 | 血管炎症候群 | | Guideline 膠原病・ リウマチー治療ガイ ドラインをどう読む - | 診断と 治療社 | 東京 | 2005 | 70-87 |
| 尾崎承一 | 高齢男性が持続する発 熱、体重減少、多関節炎、 網状皮斑、下垂足を訴え た!? | | シミュレーション内 科 リウマチ・アレ ルギー疾患を探る | 永井書 店 | 東京 | 2005 | 143- 147 |
| 尾崎承一 | 血管炎の新分類とその診 断 | | リウマチ・膠原病 最新トピックス 変 わりゆく研究と診療 | 診断と 治療社 | 東京 | 2005 | 123- 128 |

研究成果の刊行に関する一覧表（和文書籍）

| 著者氏名 | 論文タイトル名 | 書籍全体の編集者名 | 書籍名 | 出版社名 | 出版地 | 出版年 | ページ |
|--------------------------------|---|---|-----------------------|---------------------------------|-----|------|---------|
| 尾崎承一 | 関節リウマチ A. 臨床症状・検査所見・診断 | | リウマチ基本テキスト | 財団法人日本リウマチ財団 | 東京 | 2005 | 225-236 |
| 能勢真人、小森浩章 | 膠原病のゲノム病理ー病像多様性のポリジーンネットワーク | 奥村 康、平野俊夫、佐藤昇志 | Annual Review 2006 免疫 | 中外医学社 | 東京 | 2005 | 211-223 |
| 馬場智久、石津明洋 | CD4/CD8 double positive (DP) macrophage の機能. | 奥村 康、平野俊夫、佐藤昇志 | Annual Review 免疫 2007 | 中外医学社 | 東京 | 2006 | 124-131 |
| 西岡久寿樹、加藤智啓 | 免疫とプロテオミクス | 免疫学ハンドブック編集委員会 | 免疫学ハンドブック | オーム社 | 東京 | 2005 | 343-350 |
| 田中道明、中村 洋、芝川温之、増子佳世、加藤智啓、西岡久寿樹 | OA 患者における T 細胞-軟骨細胞相互作用による軟骨破壊と高分子ヒアルロン酸によるその抑制 | 田中清介 | 高分子ヒアルロン酸の基礎と臨床-最新の進歩 | メディカルビュー社 | 東京 | 2006 | 52-56 |
| 居石克夫、中島 豊 | 動脈硬化の成り立ち～「炎症・修復説」を中心に～ | 丸山幸夫、石橋敏幸 | 血管保護の新戦略 | (株) ライフサイエンス社 | 東京 | 2007 | 2-8 |
| 中島 豊、居石克夫 | 側頭動脈炎（巨細胞性動脈炎） | 尾崎承一、吉木 敬 | 血管炎アトラス | 厚生労働省難治性疾患克服研究事業難治性血管炎に関する調査研究班 | 東京 | 2005 | 3-4 |
| 中野敏昭、米満吉和、居石克夫 | 炎症性腹部大動脈炎 | 尾崎承一、吉木 敬 | 血管炎アトラス | 厚生労働省難治性疾患克服研究事業難治性血管炎に関する調査研究班 | 東京 | 2005 | 47-48 |
| 河野真司、居石克夫 | モヤモヤ病 | 尾崎承一、吉木 敬 | 血管炎アトラス | 厚生労働省難治性疾患克服研究事業難治性血管炎に関する調査研究班 | 東京 | 2005 | 67-68 |
| 鈴木和男 | 好中球の機能調節 | 山本健二、吉開泰信、光山正雄、中山俊憲、赤川清子、瀬谷 司、上出利光、岡田則子、住本英樹、川畑俊一郎、朽津和幸、小林茂人、大野尚仁 | 生体防御医学辞典 | 朝倉書店 | 東京 | 2007 | 164-169 |

研究成果の刊行に関する一覧表（和文書籍）

| 著者氏名 | 論文タイトル名 | 書籍全体の編集者名 | 書籍名 | 出版社名 | 出版地 | 出版年 | ページ |
|-------------------------|----------------------|---|-------------------------------------|---------------|-----|------|-------------------|
| 大川原朋子、 長尾朋和、 鈴木和男 | 血管炎の発症に関わる分子と好中球 | 山本健二、 吉開泰信、 光山正雄、 中山俊憲、 赤川清子、 瀬谷 司、 上出利光、 岡田則子、 住本英樹、 川畑俊一郎、 朽津和幸、 小林茂人、 大野尚仁 | 生体防御医学辞典 | 朝倉書店 | 東京 | 2007 | 309- 312 |
| 土屋尚之 | 病因：(1)遺伝。 | 長澤俊彦 | 最新医学 別冊「新しい診断と治療のABC 31 ANCA 関連腎炎」 | 最新医学社 | 大阪 | 2005 | 46- 54 |
| 土屋尚之 | 全身性エリテマトーデスのゲノム医科学 | 永井良三 監修、 徳永勝士、 大木秀一、 田中紀子 編 | 臨床ゲノム科学入門 | 杏林図書 | 東京 | 2007 | 192- 205 |
| 宮本正章、 高木 元、 水野杏一 | マゴットセラピー | 小林修三 編 | 透析患者の末梢動脈疾患とフットケア～早期発見と治療戦略～ | 医薬ジャーナル社 | 大阪 | 2008 | 115- 125 |
| 高木 元、 宮本正章、 水野杏一 | 幹細胞移植 | 小林修三 編 | 透析患者の末梢動脈疾患とフットケア～早期発見と治療戦略～ | 医薬ジャーナル社 | 大阪 | 2008 | 108- 113 |
| 宮本正章 | 分担訳 第8章、非潰瘍性病変 | 糖尿病足病変研究会編 | 糖尿病フットケアハンドブック | Spriger Japan | 東京 | 2006 | 149- 158 |
| 宮本正章 | マゴットセラピー | | 医学大辞典 第2版 | 医学書院 | 東京 | 印刷中 | |
| 森下竜一 | 遺伝子治療 | | 医科薬理学 | 南山堂 | 東京 | 2005 | 617- 20 |
| 富田奈留也 森下竜一 | 血管と創傷治癒 | 森口隆彦 | 創傷の治療最新の進歩 | 克誠堂出版 | 東京 | 2005 | 70- 84 |
| 尾崎和成 森下竜一 荻原俊男 | 遺伝子治療と再生医療 | 堀内正嗣 | THE ARB | メディカルレビュー | 東京 | 2006 | 475- 81 |
| 中林公正 | 膠原病、アレルギー、免疫疾患 | 富野康日己 | 医療禁忌診療科別マニュアル | 医歯薬出版 | 東京 | 2005 | 186- 221 |
| 中林公正 | 微小変化型ネフローゼ症候群 | 金澤一郎、 北原光夫、 山口 徹、 小俣政男 | 内科学 | 医学書院 | 東京 | 2006 | 1770- 1773 |
| 中林公正 | 二次性糸球体腎炎 膠原病性腎障害 | 佐々木成 | 看護のための最近最近医学講座「腎疾患と高血圧」 | 中山書店 | 東京 | 2007 | 274- 289 |
| 中林公正 | 内科から見る眼内炎症性疾患の病因と治療. | 岡田アナベルあやめ | Practical Ophthalmology 眼内炎症治療のこれから | 文光堂 | 東京 | 2007 | 1:25 3- 258 |
| 天野宏一 | リウマチ性多発筋痛症 | 富野康日己 | 内科疾患診療マニュアル | 中外医学社 | 東京 | 2005 | 772- 775 |

研究成果の刊行に関する一覧表（和文書籍）

| 著者氏名 | 論文タイトル名 | 書籍全体の編集者名 | 書籍名 | 出版社名 | 出版地 | 出版年 | ページ |
|---------------------------|---------------------------|------------------------|----------------------------------|-----------------------|-----|------|-----------|
| Burmester G-R, Pezzutto A | Color Atlas of Immunology | 奥村 康、橋本博史、秋葉久弥、小林茂人 監訳 | カラー図解 臨床に役立つ免疫学 | メディカル・サイエンス・インターナショナル | 東京 | 2006 | |
| 小林茂人 | 医療経済 | 長澤俊彦 | ANCA 関連腎炎 | 最新医学社 | 大阪 | 2005 | 195-203 |
| 小林茂人 | 血清反応陰性脊椎関節症の概念 | 日本リウマチ財団 | リウマチ基本テキスト 第2版 | 日本リウマチ財団 | 東京 | 2005 | 369-373 |
| 小林茂人 | ライター症候群（反応性関節炎） | 日本リウマチ財団 | リウマチ基本テキスト 第2版 | 日本リウマチ財団 | 東京 | 2005 | 378-381 |
| 小林茂人 木田一成 | 膠原病の臨床所見とその読み方、2)その他の疾患 | 能勢眞人、尾崎承一 | 病理と臨床 | 文光堂 | 東京 | 2005 | 23:24-31 |
| 小林茂人 | HLA-B27 関連脊椎関節疾患 | 小池隆夫、住田孝之 | GUIDLINE 膠原病・リウマチ-治療ガイドラインをどう読むか | 診断と治療社 | 東京 | 2005 | 112-121 |
| 池田 真、 小林茂人 | 強直性脊椎炎、反応性関節炎および分類不能脊椎関節症 | 福井次矢、黒川 清 | ハリソン内科 | メディカル・サイエンス・インターナショナル | 東京 | 2005 | 1995-2002 |
| 古川福実 | 円板状エリテマトーデス | 山口 徹、北原光夫 | 「今日の治療指針2007」 | 医学書院 | 東京 | 2007 | 846 |
| 上中智香子、 古川福実 | エリテマトーデスと環境因子 | 戸倉新樹 | 環境職業からみた皮膚疾患 | 文光堂 | 東京 | 2007 | 242-245 |
| 古川福実 | ループスエリテマトーデス | 古川福実、片山一朗 | 目で見るアレルギー性皮膚疾患 | 南山堂 | 東京 | 2007 | 155-165 |
| 中村智之、 金澤伸雄、 古川福実 | 結節性多発動脈炎 | 古川福実、片山一朗 | 目で見るアレルギー性皮膚疾患 | 南山堂 | 東京 | 2007 | 224-203 |
| 古川福実 | ループスエリテマトーデス | 日本皮膚科学会研修委員会編 | 皮膚科専門医テキスト集 2000年度 | 日本皮膚科学会 | 東京 | 2006 | 69-93 |
| 古川福実、 吉益 隆 | 薬剤性ループスとLE. | 塩原哲夫 編 | 薬疹を極める | 文光堂 | 東京 | 2006 | 201-205 |
| 吉益 隆、 古川福実 | ループスエリテマトーデス（LE）における光線過敏 | 齊藤俊明、飯塚 一 編 | 先端医療シリーズ38 皮膚科 皮膚疾患の最新医療 | 先端医療技術研究所 | 東京 | 2006 | 146-148 |
| 古川福実 | 全身性強皮症 | 瀧川雅浩 | 皮膚疾患最新の治療 2005-2006 | 南江堂 | 東京 | 2005 | 64-65 |
| 古川福実 | 全身性エリテマトーデス | 玉置邦彦、塩原哲雄 編 | 皮膚免疫ハンドブック改訂版 | 中外医学社 | 東京 | 2005 | 277-286 |
| 古川福実、 伊藤泰介 | 免疫と薬 | 中谷晴昭、大橋京一 編 | シリーズ「看護の基礎科学 薬とのかかわり：臨床薬理学」 | 日本看護協会出版会 | 東京 | 2005 | 247-252 |
| 大谷稔男 | 血管炎 | 石川 治、伊藤雅章、古川福実 編 | コメディカルのための実践皮膚科学 | 中外医学社 | 東京 | 2005 | 73-75 |
| 湯村和子 | 9 腎疾患 全身性エリテマトーデスによる腎障害 | 総編集：山口 徹、北原光夫、福井次矢 | 今日の治療指針2008 | 医学書院 | 東京 | 2008 | 453-456 |

研究成果の刊行に関する一覧表（和文書籍）

| 著者氏名 | 論文タイトル名 | 書籍全体の編集者名 | 書籍名 | 出版社名 | 出版地 | 出版年 | ページ |
|------|--|---------------------------|--------------------------------------|---|-----|------|--|
| 湯村和子 | 5. 腎・泌尿器疾患 膠原病に伴う腎障害 | | 今日の診断基準 | 南江堂 | 東京 | 2007 | 425- 426 |
| 湯村和子 | 慢性腎臓病 保存療法 | 監修 日野原重明、 井村裕夫 | 看護のための最新 医学講座 第 6巻 腎疾患と 高血圧 | 中山書店 | 東京 | 2007 | 386- 397 |
| 湯村和子 | ANCA 関連腎炎の病態と モデルマウスでの知見 | 鈴木和男 (監修) | 生体防御医学事 典 | 朝倉書店 | 東京 | 2007 | 304- 308 |
| 湯村和子 | 抗リン脂質抗体症候群 (劇症型を含む) | 榎野博史、 飯野靖彦、 秋澤忠男 編集 | 腎疾患・透析最 新の治療 2008- 2010 | 南江堂 | 東京 | 2007 | 208- 212 |
| 湯村和子 | 免疫グロブリン | 黒川 清 監修 | 透析患者の検査 値の読み方 | 日本メディカ ルセンター | 東京 | 2007 | 272- 274 |
| 湯村和子 | ループス腎炎 | 飯野靖彦、 榎野博史 編集 | 腎疾患・透析最 新の治療 2005- 2007 | 南江堂 | 東京 | 2007 | 115- 120 |
| 湯村和子 | X腎・尿路疾患 5. 尿 路疾患の検査法 | 金澤一郎 他 | 内科学 | 医学書院 | 東京 | 2007 | 1719- 1720 |
| 湯村和子 | 慢性腎不全 慢性腎不 全の病態・原因・治療 は？ | 湯村和子 他 | 腎不全・透析患 者指導ガイド | 日本医事新報 社 | 東京 | 2006 | 12-15 |
| 湯村和子 | 306 血管炎症候群 | 黒川 清 他 | ハリソン内科学 | メディカル・ サイエンス・ インターナシ ョナル | 東京 | 2006 | 2005- 2068 |
| 湯村和子 | ループス腎炎 疾患 29 (尿異常を指摘され血 液一般・ 生化学検査で膠原病が 疑われた！) | 編集： 今井裕一 | シミュレショ ン内科 腎疾患を探る | 永井書店 | 東京 | 2005 | 195- 201 |
| 湯村和子 | ループス腎炎 患者の 透析導入期での診療の 注意点 | 編集： 浅野 泰 | 腎不全治療のコ ツと落とし穴 | 中山書店 | 東京 | 2005 | 188- 189 |
| 湯村和子 | ループス腎炎 血管炎 症候群 アミロイド腎 症 腎疾患の薬物療法（免 疫抑制薬） | 二瓶 宏・ 湯村和子 監修 | 図説腎臓病学 第3版 | 日本医事新報 社 | 東京 | 2005 | 56-62 69-76 85-88 171- 176 |
| 湯村和子 | グッドパスチャー症候 群 | | 血管炎アトラス | 厚生労働省難 治性疾患克服 研究事業難治 性血管炎に関 する調査研究 班 | 東京 | 2005 | 49-50 |
| 湯村和子 | ANCA 関連腎炎の管 理・治療 | 編集： 長澤俊彦 | ANCA 関連腎炎 | 最新医学社 | 東京 | 2005 | 183- 193 |
| 吉田雅治 | ANCA 関連腎症 | 五十嵐隆、 鈴木洋通、 丸茂 健 | 腎・泌尿器疾患 診療マニュアル 日本医師会雑誌 | 日本医師会 | 東京 | 2007 | 136 (Suppl 2)190- 191 |
| 吉田雅治 | 血管炎に関連する急速 進行性糸球体腎炎 | 五十嵐隆、 鈴木洋通、 丸茂 健 | 腎・泌尿器疾患 診療マニュアル 日本医師会雑誌 | 日本医師会 | 東京 | 2007 | 136 (Suppl 2)194- 195, |
| 吉田雅治 | 腎血管炎 | 杉本恒明、 矢崎義雄 | 内科学第9版 | 朝倉書店 | 東京 | 2007 | 1259- 1261 |

研究成果の刊行に関する一覧表（和文書籍）

| 著者氏名 | 論文タイトル名 | 書籍全体の編集者名 | 書籍名 | 出版社名 | 出版地 | 出版年 | ページ |
|--------------|--|--------------------------|------------------------|------------|-----|------|--------------------------|
| 吉田雅治 | 血栓性微小血管症（溶血性尿毒症症候群） | 山口 徹、北原光夫、福井次矢 | 今日の治療指針 | 医学書院 | 東京 | 2007 | 438-439 |
| 吉田雅治 | 抗好中球細胞質抗体（ANCA） | 和田 攻、大久保昭行、矢崎義雄 | 臨床検査ガイド | 文光堂 | 東京 | 2007 | 682-685 |
| 吉田雅治 | ANCA 関連腎炎 | 小椋陽介 | 日本透析医会 腎不全治療マニュアル 2007 | 日本透析医会 | 東京 | 2007 | 138-143 |
| 吉田雅治 | ANCA 関連腎血管炎 | 林 松彦、飯野靖彦 | 腎臓病を外来で診る | 診断と治療社 | 東京 | 2007 | 62-73 |
| 吉田雅治 | 続発性糸球体疾患 Wegener 肉芽腫症 | 宮田敏男 | 分子腎臓病学 | 日本臨床 | 大阪 | 2006 | 64(2): 460-466 |
| 吉田雅治 | 血管炎症候群 | 池田康夫 | 血栓症ナビゲーター | メディカルレビュー社 | 東京 | 2006 | 156-157 |
| 吉田雅治 | 抗好中球細胞質ミエロペルオキシダーゼ抗体（MPO-ANCA）、抗好中球細胞質プロテイナーゼ3抗体（PR3-ANCA） | 橋本信也 | 最新臨床検査のABC | 日本医師会 | 東京 | 2006 | 135 (suppl 2): S314-S315 |
| 吉田雅治 | 抗糸球体基底膜抗体（抗GBM抗体） | 橋本信也 | 最新臨床検査のABC | 日本医師会 | 東京 | 2006 | 135 (suppl 2): S316 |
| 吉田雅治 | ANCA 関連血管炎に伴う糸球体腎炎（腎血管炎） | 北岡建樹、飯野靖彦、五十嵐隆 | 腎・尿路疾患の診療指針 2006 | 東京医学社 | 東京 | 2006 | 249-254 |
| 吉田雅治 | 病態生理 | 長澤俊彦 | 腎 3 ANCA 関連腎炎 | 最新医学社 | 大阪 | 2005 | 37-45 |
| 吉田雅治 | 感染症対策 | 長澤俊彦 | 腎 3 ANCA 関連腎炎 | 最新医学社 | 大阪 | 2005 | 175-182 |
| 吉田雅治 | ANCA 関連腎炎の最近のトピックス | 長澤俊彦 | 腎 3 ANCA 関連腎炎 | 最新医学社 | 大阪 | 2005 | 216-224 |
| 吉田雅治 | ANCA 関連腎炎 | 宮坂信之 | わかりやすい免疫疾患 | 日本医師会 | 東京 | 2005 | S 特別号 (1) 289-292 |
| 吉田雅治 | 抗好中球細胞質抗体（ANCA） | 和田 攻、大久保昭行、矢崎義雄 | 臨床検査ガイド 2005～2006 | 文光堂 | 東京 | 2005 | 678-681 |
| 吉田雅治 | 抗好中球細胞質抗体（ANCA） | 古澤新平、金山正明、橋本博史 | 臨床検査 診断マニュアル改訂第2版 | 永井書店 | 大阪 | 2005 | 365-368 |
| 吉田雅治 | Goodpasture 症候群と抗基底膜抗体糸球体腎炎 | 小山哲夫 | ネフローゼ症候群のすべて | 東京医学社 | 東京 | 2005 | 59 (suppl) 486-492 |
| 山田秀裕 尾崎承一 | 血管炎症候群 | | GUIDELINE 膠原病・リウマチ | 診断と治療社 | 東京 | 2005 | 70-87 |
| 山田秀裕 | 膠原病 | 酒井 紀、早川弘一、西崎 統、小林祥泰、福井次矢 | 内科学レビュー2005 | 総合医学社 | 東京 | 2005 | 270-274 |

研究成果の刊行に関する一覧表 (英文書籍)

| 著者氏名 | 論文タイトル名 | 書籍全体の 編集者名 | 書籍名 | 出版社名 | 出版地 | 出版年 | ページ |
|--------------------|--|--------------------|---|----------------------|--------|------|-------------|
| <u>T. Asahara</u> | Cell Therapy and Gene Therapy Using Endothelial Progenitor Cells for Vascular Regeneration | HEP | Springer-Verlag Berlin Heidelberg | | Berlin | 2007 | 180:181-194 |
| <u>Morishita R</u> | Gene therapy vs pharamacotherapy. | Raizada et. al. | "Contemporary Cardiology: Cardiovascular genomics" | Humana Press Inc. | USA | 2005 | p. 137-156 |

研究成果の刊行に関する一覧表 (雑誌)

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|--|--|------------------------|---------|-----------|----------|
| Yamasaki Y., Yamada H., Yamasaki M., Ohkubo M., Azuma K., Matsuoka S., Kurihara Y., Osada H., Satoh M. and Ozaki S. | Intravenous cyclophosphamide therapy for progressive interstitial pneumonia in patients with polymyositis/dermatomyositis. | Rheumatology | 46 | 124-130 | 2007 |
| Matsushita T., Hasegawa M., Fujimoto M., Hamaguchi Y., Komura K., Hirano T., Horikawa M., Kondo M., Orito H., Kaji K., Saito Y., Matsushita Y., Kawara S., Yasui M., Seishima M., Ozaki S. | Ogawa F., Sato S. and Takehara K.: Clinical evaluation of anti-aminoacyl tRNA synthetase antibodies in Japanese patients with dermatomyositis. | J. Rheumatol | 34(5) | 1012-1018 | 2007 |
| Nozaki T., Takahashi K., Ishii O., Endo S., Hioki K., Mori T., Kikukawa T., Dimitrios T. Boumpas, Ozaki S. and Yamada H. | Development of an Ex Vivo Cellular Model of Rheumatoid Arthritis. | Arthritis & Rheumatism | 56(9) | 2875-2885 | 2007 |
| Suzuki K., Kobayashi S., Yamazaki K., Gondo M., Tomizawa K., Arimura Y., Nakabayashi K., Ozaki S., Yoshida M., Yoshida T., Tsusaka N., Muso E., Okazaki T. and Hashimoto H. | Analysis of risk epitopes of anti-neutrophil antibody MPO-ANCA in vasculitis in Japanese population. | Microbiol. Immunol | 51(12) | 1215-1220 | 2007 |
| Ozaki S. | ANCA-associated vasculitis: diagnostic and therapeutic strategy. | Allergol. Int. | 56(2) | 87-96 | 2007 |
| 山崎宜興、山田秀裕、尾崎承二 | 多発性動脈炎 | 総合臨床 | 56(3) | 537-542 | 2007 |
| 山田秀裕、尾崎承二 | ANCA 関連血管炎克服の歴史と展望 | ヴァイジュアル・ダーマトロジー | 6(5) | 522-526 | 2007 |
| 尾崎承二 | なんでも健康相談。Q&A「パージャヤー病」の治療について教えてください。」 | NHK きよりの健康 | 8 | 121 | 2007 |
| 山崎宜興、山田秀裕、尾崎承二 | 肺の血管炎症候群 | 呼吸と循環 | 55(8) | 921-925 | 2007 |
| 尾崎承二 | 診断と治療の実際 血管炎 | 日本内科学会雑誌 | 96(10) | 57-68 | 2007 |
| 尾崎承二 | 難治性血管炎の分類と最新の知見 | Heart View | 11(11) | 55-59 | 2007 |
| 山田秀裕、尾崎承二 | ANCA 関連血管炎 | 呼吸器科 | 12(3) | 229-235 | 2007 |
| 尾崎承二 | 結節性多発動脈炎 | からの科学 | 256 | 51-56 | 2007 |
| 尾崎承二 | 臨床医学教育の現状と課題:内科学(リウマチ・膠原病・アレルギー-内科) | 聖マリアンナ医科大学雑誌 | 3 特集増刊号 | 59-63 | 2007 |
| 木村健二郎、尾崎承二、山縣邦弘、野島美久、城 謙輔 | Round Table Discussion「増加する ANCA 関連腎炎—臨床医は何に注意し、どのように対処したらよいか—」 | Nephrology Frontier | 7(1) | | in press |

| 発著者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|--|--|------------------------|--------|-----------|----------|
| 尾崎承二 | 血管炎症候群 | 内科疾患診療マニユアル | | | in press |
| Kawakami T., Soma Y., Saito C., Ogawa H., Nagahuchi H., Okazaki T., Ozaki S. and Mizoguchi M. | Cutaneous manifestations in patients with microscopic polyangiitis: Two case reports and a minireview. | Acta Derm Venereol | 86(2) | 144-147 | 2006 |
| Miyashita R., Tsuchiya N., Yabe T., Kobayashi S., Hashimoto H., Ozaki S. and Tokunaga K. | Association of killer cell immunoglobulin-like receptor genotypes with microscopic polyangiitis. | Arthritis & Rheumatism | 54(3) | 992-997 | 2006 |
| Tsuchiya N., Kobayashi S., Hashimoto H., Ozaki S. and Tokunaga K. | Association of HLA-DRB1*0901-DQB1*0303 haplotype with microscopic polyangiitis in Japanese. | Genes and Immunity | 7 | 81-84 | 2006 |
| Kimata T., Oka H., Ozaki S., Nakamura H., Nishioka K., Mori K., Sato H. and Shimao D. | X-ray refraction contrast imaging with in-line configuration on human and rat osteoarthritis of knee joints. | 臨床リウマチ | 18(1) | 72-80 | 2006 |
| 尾崎承二 | 血管炎を考える。内科医からみた最近の考え方。 | 皮膚臨床 増大号 | 48(3) | 269-279 | 2006 |
| 唐沢里江、尾崎承二 | 血管炎における自己抗体 | 炎症と免疫 | 14(3) | 110-115 | 2006 |
| 岡寛、尾崎承二 | 膠原病診療におけるクリニカルパス | 内科 | 97(4) | 689-693 | 2006 |
| 尾崎承二 | 血管炎症候群—ANCA 関連血管炎を中心に— | Medical Practice | 23(4) | 681-686 | 2006 |
| 尾崎承二 | なんでも健康相談。Q&A「抗リン脂質抗体症候群」による血栓症で入院中です。 | NHK きよりの健康 | 5 | 113 | 2006 |
| 永瀬裕子、尾崎承二 | ダクリズマブ。自己免疫疾患の新しい治療法—生物学的製剤を中心に— | 最新医学 | 61(5) | 987-992 | 2006 |
| 尾崎承二 | Journal Club “Randomized trial of cyclophosphamide versus methotrexate for induction of remission in early systemic antineutrophil cytoplasmic antibody-associated vasculitis.” “Etanercept plus standard therapy for Wegener’s granulomatosis.” | 分子リウマチ | 3(2) | 78 | 2006 |
| 尾崎承二 | ANCA 関連血管炎に対する免疫抑制療法。慎重な立場から | 内科 | 98(6) | 1115-1120 | 2006 |
| 尾崎承二 | 血管炎症候群の診断と治療 Update | アレルギー | 55(12) | 1497-1503 | 2006 |
| Karasawa R., Ozaki S., Nishioka K. and Kato T. | Autoantibodies to peroxiredoxin I and IV in patients with systemic autoimmune diseases. | Microbiol. Immunol. | 49(1) | 57-65 | 2005 |
| Watanabe T., Kubota S., Nagaya M., Ozaki S., Nagafuchi H., Akashi K., Taira Y., Tukikawa S., Oowada S. and Nakano S. | The role of HMGB-1 on the development of necrosis during hepatic ischemia and hepatic ischemia/reperfusion injury in mice. | J. Surg. Res. | 124(1) | 59-66 | 2005 |

| 発表者氏名 | 論文タイトル名 | 発表誌名 | 巻号 | ページ | 出版年 |
|---|---|------------------------|--------------------|-----------|------|
| Shimizu A., Oka H., Matsuda T., Ozaki S. | (1→3)-β-D glucan is a diagnostic and negative prognostic marker for <i>Pneumocystis carinii</i> pneumonia in patients with connective tissue disease. | Clin and Experi Rheum. | 23 | 678-680 | 2005 |
| 尾崎承二 | 血管炎-最近の考え方と治療 | 日本内科学雑誌 | 94(3) | 100-105 | 2005 |
| 尾崎承二 | 結節性多発動脈炎の診断基準・重症度 | 内科 | 95(6) | 1460-1464 | 2005 |
| 尾崎承二 | 診断メモ Wegener 肉芽腫症 | 内科 | 95(6) | 1472-1473 | 2005 |
| 尾崎承二 | 診断メモ 側頭動脈炎・リウマチ性多発筋痛症 | 内科 | 95(6) | 1470 | 2005 |
| 尾崎承二 | 膠原病の病因 | 病理と臨床 臨時増刊号 | 23 | 7-17 | 2005 |
| 尾崎承二 | 血管炎症候群 | 日本医師会雑誌134特別号 | (1) | 188-194 | 2005 |
| 尾崎承二 | 血管炎症候群 | 免疫と疾患(後編) -自己免疫と疾患- | 60 6 増刊 号 | 163-174 | 2005 |
| 尾崎承二 | 血管炎。-その分類と疫学 | 医学のあゆみ | 214(1) | 57-62 | 2005 |
| 尾崎承二 | 抗好中球細胞質抗体と血管炎診療の新展開 | 日本内科学会雑誌 | 94(10) | 30-38 | 2005 |
| 尾崎承二 | なんでも健康相談。Q&A「リウマチ性筋痛症」 | NHKきょうの健康 | 11月号 | 147 | 2005 |
| 尾崎承二 | 顕微鏡的多発血管炎 | リウマチ科 | 34(1) | 12-21 | 2005 |
| 永淵裕子、尾崎承二 | 臨床症状 血管炎 | 日本臨床 | 63(1) | 274-277 | 2005 |
| 岡寛、尾崎承二 | 合併症を有すRA症例の治療 | Arthritis運動器疾患と炎症 | 3(1) | 51-54 | 2005 |
| 大久保道子、尾崎承二 | 副腎皮質ステロイド薬 | 内科 | 95(3) | 473-477 | 2005 |
| 中野弘雅、尾崎承二 | リウマチ性多発筋痛症とRS3PE | Medical Practice | 22(3) | 441-444 | 2005 |
| 東浩平、尾崎承二 | 関節リウマチ患者が、空咳、呼吸困難を訴えて来院したら (MTX肺炎その他) | medicina | 42(5) | 840-842 | 2005 |
| Nose M. | A Proposal Concept of a Polygene Network in Systemic Vasculitis: Lessons from MRL Mouse Models. | Allergol Int. | 56 | 79-86 | 2007 |
| Yoshimoto S, Nakatani K, Iwano M, Asai O, Samejima K, Sakan H, Terada M, Harada K, Akai Y, Shiiki H, Nose M, Saito Y. | Elevated levels of fractalkine expression and accumulation of CD16 ⁺ monocytes in glomeruli of active lupus nephritis. | Am J Kidney Dis | 50 | 47-58 | 2007 |